



## 「苦難を希望に変えるために」

2025年7月

聖書科 岡本 拓也

そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。 (ローマの信徒への手紙 5章3~4節)

今この文章を目にしたあなたは、これを最後まで読み通すことができるでしょうか。

もし途中で読むのが面倒になったり、さっさと結論を言えと思ったなら、あなたの忍耐力はかなり下がっている所以要注意です。きっと毎日に希望を持たずに過ごしていることでしょう。

ところで、皆さんは最近映画を観ましたか？ この頃、ネットを見ていると映画やテレビアニメの解説動画や考察動画をよく目にします。物語に秘められた謎を解明することは知的好奇心を刺激しますし、それはそれで面白いことです。しかしどうも、その解説や考察を読んだり見たりして、作品を解ったつもりになって満足する人が多いようです。しかし、それで本当にその作品を楽しんだことになるのでしょうか。

急に話が変わったり、どこへ向かうかわからない話を読み進めるのはなかなか大変ですよ。頑張りましょう。

映画には(実写、アニメによらず)演出があります。役者の演技やセリフはもちろん、背景や小物、カメラアングル、構図、光の差し込み方や色、質感、音、間などが全体として画面に意味を与えます。そしてその場面の演出は、それまでの映画の流れの中にあるので、冒頭から良く観察しておかなければピンと来ません。全ての画面は意図して作られているのです。

これは漫画や小説においても同じです。漫画においてはコマ割り、線の太さ、アングル、キャラクターの表情、セリフ、効果線などが、小説においては語彙、文法、句読点、音韻、改行などの一つ一つに作者や演出家の思いと計算が込められています。

果たして、解説や考察を読むだけでこれらの、いわば「作者の息遣い」を感じることができるでしょうか。

ここからが本題です。

一つの作品を、演出を味わいつつ最初から最後まで観る／読むには忍耐が必要です。ですが、現代に生きるわたしたちはこの忍耐力が下がり、じつくりと腰を据えて物事に取り組むということができなくなっているのではないのでしょうか。

これは、スピードと結果を求める現代の価値観の弊害だと私は思います。できるだけ面倒を回避して、効率よく結果を出すことをよしとする現代では、つまずいたり、悩んだり、苦しんだり、遠回りすることは、無駄なこととして排除されます。それで、文章を読むことすら苦難として退け、ヘッドラインやサマリーを読むだけで解った気になってしまうのです。切り抜き動画や AI による要約が重宝される理由がこれでしょう。

苦難を回避しようとする、忍耐力が育ちません。早く結果を出すどころか、結果のみを求め世の中では、全ての途中経過は無駄になります。苦難を乗り越える忍耐。これが現代の私たちに最も欠けている能力なのではないでしょうか(これがこの文章の主題です)。その結果、あなたが今読んでるこの文章を最後まで読むことさえ苦難のように感じてしまうのです。たった数キロバイトの文章を読む苦難を忍耐できずに、どうやって現実社会の、あなたの人生の困難に立ち向かうことができるでしょうか。

少し興味が出てきましたか? ここから話を展開します。

忍耐は練達に通じると聖書は言います。この「練達」と訳されたギリシャ語は  $\delta\omicron\kappa\iota\mu\eta$  (ドキメ) で、「見分ける」「吟味する」「確かめる」などという意味でも使われ、そこから「信頼する」「確信する」「証拠とする」という意味も出てきます。つまり  $\delta\omicron\kappa\iota\mu\eta$  とは、よく見極め、確かめることで信頼に足る確信を得ることです。解説や切り抜き動画、ヘッドラインだけ読んだニュースで得た知識に対して「本当にそうなのですか? 確信はありますか?」と問われると、たじろいでしまいます。ですが、自分で鑑賞し、読み、体験した出来事については確信を持って自分の意見を述べることができるでしょう。

練達とは、このように「知識を体験として身につけること」を指すのです。苦難を忍耐することで身につけた知識は、確信となって進むべき方向を指し示すことができます。これが希望です。

現代に生きるわたしたちは、少ない努力で最大の利益を得ようと効率を追求した結果、苦難は減ったものの忍耐できなくなり、練達することなくフェイクニュースや陰謀論に翻弄され希望を失っているのではないのでしょうか。これが冒頭で「きっと毎日に希望を持たずに過ごしていることでしょう」と言ったことにつながります。すべての文章は導入から結論まで、計算されて書かれているのです(そうでない文章は未完成です。何度も読み直し推敲しましょう)。

そうして、結論へ向かいます。

私たちが経験する苦難には、無駄なものはありません。どんなに遠回りに思えるようなことにも意味があります。それを経験することで忍耐が練達になり、希望を生むのです。日々の生活、特に学校生活や授業の中には「こんなことに意味があるのだろうか」「もっと効率よくやることができるのではないだろうか」と思うことがあるでしょう。しかし、それを忍耐することにこそ意味があることを忘れずにいましょう。その、日々の訓練によって私たちは練達し、本当に困難な状況や苦難に陥ったときに、それを乗り越える希望を見出すことができるのです。

お疲れさまでした。どうでしょう? 一つの文章、物語を読み通すのは忍耐を鍛える良い訓練になりますね。どうぞ沢山本を読んで、様々な苦難を乗り越える忍耐を身につけてください。